


アニマルランド NEWS

わんぱーくこうちアニマルランド
№105 Apr 2024

- 
- ・ 2024年度えと展について
 - ・ SDGsの取り組み～食品ロスから動物園の食卓を彩る～
 - ・ ツキノワグマのワカとの思い出
 - ・ いきもの講座

10月から3月

- 10/1 ふれあい広場開始
スマトラトラ「アカラ」お別れ会開催
- 10/18 スマトラトラ「アカラ」移動
- 10/21 ツキノワグマ「キノ」命名式
- 11/22～ 鳥インフルエンザ感染対策のため
コールドックの展示中止、バードハウス閉鎖
- 11/27 ホンドタヌキ「なっちゃん」死亡
- 11/29 ツキノワグマ「ワカ」死亡
- 12/10 第22回いきもの講座開催
- 12/14～1/30 えと展「これであなたも龍のツツ人！」開催
- 12/23 干支引継ぎ式開催(桂浜水族館にて)
- 1/15 SDGsの取り組み開始
- 2/24 シバヤギ「ユキ」死亡
- 2/29 アビシニアコロブス「ゴー」移動
- 2/29～ 動物紹介「知ってる?!トビ」
- 3/30～ わんぱーくこうちまつり

メッセージボード



アカラにたくさんのメッセージをいただきました。

スマトラトラ「アカラ」



「アカラ」お別れ会



スマトラトラ「アカラ」が繁殖のため、横浜市立よこはま動物園ズーラシアに移動しました。

お別れ会には多くの方が参加してくれました。

ツキノワグマ命名式



いきもの講座



投票の結果、「キノ」に決定しました。

高知県立牧野植物園より藤川和美さんをお招きし、植物についてお話しいただきました。

のできごと

えと展



今年の干支「龍」について楽しく学んでもらいました。

干支引継ぎ式



桂浜水族館で毎年恒例の干支引継ぎ式を行いました。2023年の干支のウサギから、金龍の別名を持つアジアアロワナに委任状を引き継ぎました。

動物紹介



トビについて詳しく解説しました。

アビシニアコロブス「ゴウ」移動



繁殖のため、浜松市動物園に移動しました。

アニマルランドに貢献してくれた仲間たち



ホンドタヌキ「なっちゃん」(13歳以上)



シバヤギ「ユキ」(15歳以上)



ツキノワグマ「ワカ」(29歳以上)



キエリボウシインコ(38歳以上)

2024年度えと展について

当園では2008年から干支展と題して、新年の干支と当園にいるいきものを絡めたパネル展示を行っています。『子』ならげっ歯類のヤマネ、『丑』ならウシ科のカモシカ、『寅』ならスマトラトラ…など。しかし今年には十二支中最難関の…『辰』！！そもそも“龍”や“竜”は実在しないので、園内動物とのコラボレーションはあきらめざるをえませんでした。そんな辰年担当となった私ですが、まずは龍のことを知らなければと思い、図書館で10冊以上の本を借り、日本や中国の故事、幻想モンスター図鑑などを読みあさりしました。

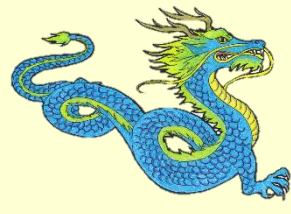
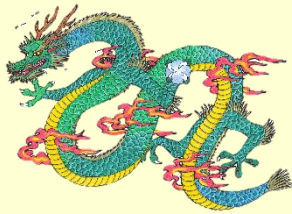
そもそも龍のモデルはいるのでしょうか。調べると諸説ありますが、どうやら龍は9つのいきもの（ウシ、シカ、ヘビ、トラ、ラクダ、タカ、オニ、大蛇、魚）の合体だそうです。しかも、その9つの中にも実在しないオニや大蛇などが混じっていて、何重にも謎に包まれた空想上のいきものであることが分かります。そして西洋では“悪魔”としてキリスト教の敵役として描かれる一方、東洋では“王権”の象徴として崇められるという、全く正反対の扱いを受けていることも興味深かったです。さらに言うと、インドや日本では“龍神”、“神様”のイメージも強いですね。このように“龍”や“ドラゴン”の解釈については、古今東西多岐にわたり、良くも悪くも人間とはかけ離れた存在として、人々の羨望（あこがれ）や畏怖（おそれ）などが具現化されたのだと感じました。幻獣のため姿かたちもワーム型、ヘビ型、トカゲ型、二/四足歩行型、半身ヒト型、有翼型、多頭型など実にバリエーションに富んでいます。しかしどことなく実在するいきものの組み合わせが感じられ、大昔から人間は他のいきものに対するリスペクトがあったのかもしれない。

龍にまつわるクイズコーナーはレベル別に12問作成しました。本を読んでいくうちに歴史や故事にまつわる面白い豆知識があったので、ぜひ紹介したいと思ったからです。自分自身も知らないことばかりでとても興味深いコーナーになったと思います。またはやりの聖地巡礼ではないですが、高知県の龍ゆかりの地を紹介する大パネルも作成しました。ぜひ今年中に訪れて龍のパワーにあやかってみてください。

パネルのデザインでこだわったところとしては、全体をカッコよく豪華な雰囲気にするということです。やはり、私の中で龍の基本的なイメージは、中華風の、ラーメンのどんぶりのふちに描かれているあの姿です。龍の荘厳さが伝わるような朱色と金色をベースにした、お正月らしくおめでたい色彩で全体をまとめました。あとは龍の写真というものはなく、空想上のお話も多かったため、本などを参考にイラストをたくさん手描きしました。企画展でこんなに描いたのははじめてかもしれませんが、自分も空想の世界にひたりながら描けたのは楽しかったです。個人的なお気に入りには“青龍”です。（背中に乗ってみたい！）

今回はいつもの動物園業務とはまた違う目線の業務でしたが、いつのまにか私も龍の魅力にはまった一人かもしれません。

（井上春奈）



SDGsの取り組み ～食品ロスから動物園の食卓を彩る～

アニマルランドではSDGsの取り組みとして、市民の方から野菜果物の寄付を募りました。そもそも動物園でSDGs?と思うかもしれませんが、しかし、当園では出前授業やサマースクールでの『教育普及』、四国産ニホンカモシカや、ジャガーなどの飼育繁殖に力を入れることで『陸の豊かさ』などで、SDGsが達成されています。その中で『つかう責任、つくる責任』はアニマルランドでは達成できていませんでした。そこで食品ロスが問題になっている昨今、家庭や農家では多くの野菜が廃棄されているのではないかと目を付けました。また、当園の動物たちが食べるエサは新鮮ではありますが、決まったエサを与えることがほとんどです。本来野生動物たちは、旬なものをたくさん食べています。旬の野菜果物を寄付していただくことで、多様なエサを与えることができ、動物たちの生活の質を豊かにすることができます。食品ロスと動物園をつなげることで地球環境に優しい取り組みになると考えました。

この取り組みで期待される効果としては、①エサの多様性を維持して動物福祉を充実させる、②廃棄作物から堆肥まで資源の循環、③環境教育の場としての役割を果たす、④市民との協働、この4つが挙げられます。

2024年1月15日から寄付を募り、現在まで130件(3/10時点)の寄付をいただきました。その中でも、ブロッコリーの外葉や人参の葉、パプリカ、ゴボウなどは普段与えることができないものです。ウサギやモルモットたちは我先にと寄付野菜にかじりついていました。その他にも、枝ごといただいたハッサクをそのままチンパンジーに与えることで、彼らに野生下の行動を再現させるという最高のエンリッチメントを行うこともできました。また、当園では動物の糞や食べ残しは堆肥化されるため、資源の循環に繋げることもできました。

本取り組みを行う中で、一般家庭や農家での廃棄野菜や果物がこんなに多いことは驚きでした。野生動物と人との軋轢が問題となっている昨今ですが、柑橘類などの果物を収穫せず放置することは野生動物を引き寄せる要因になってしまいます。育てたものはきちんと収穫し適切に処理するという過程の一部を当園が担えたこともよかったと気づきました。そして今後は環境教育として、講義などを通じてこの取り組みを市民の方にお話ししたいと考えています。

今回の取り組みを行う中で、アニマルランドになかなか来る機会がない方も足を運んでくださり、「子どもが小さい頃は本当によく来た。力になれることがあれば協力したい。」という声を聞きました。市民の方々に支えられてアニマルランドがあるのだと改めて感じました。そしてこの取り組みは、高知市役所の職員提案制度で奨励賞を受賞し、高知市長から表彰を受けました。これも市民の方の協力のおかげであり、心より感謝いたします。

(門谷真奈)





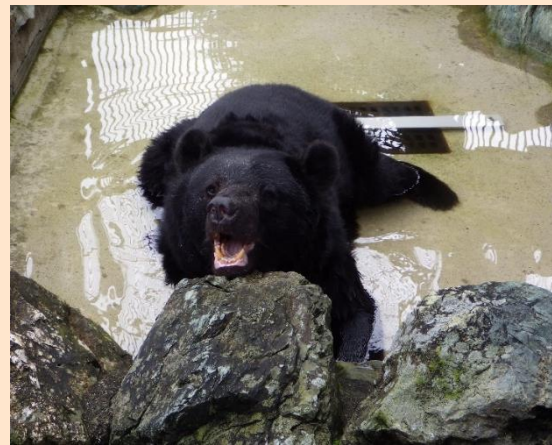
ツキノワグマのワカとの思い出



私のはじめての担当動物がツキノワグマのオスのワカでした。それから9年ほどの付き合いを経て、推定29歳のワカは2023年11月に永眠しました。ワカが来園してからは26年以上経ち、その思い出をつづります。

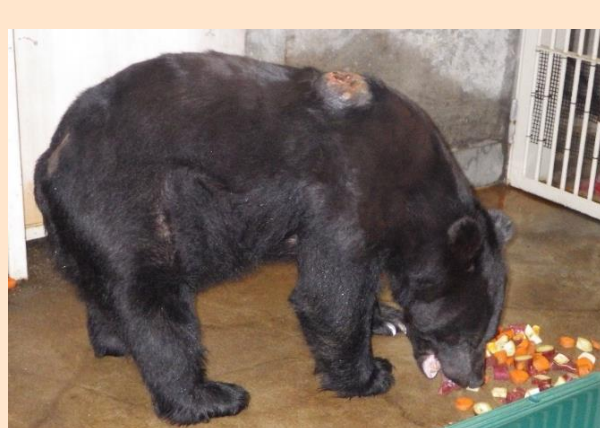
ワカと当園の縁は、1996年に和歌山県の人里で若いクマが捕まったことから始まります。前にいたオスが亡くなっておりまだ幼いワカが来園することになりました。昨今のツキノワグマ情勢を考えると、処分をまぬがれたワカは幸運だったと言えます。当時を知る担当者からは、本当にやんちゃでいろいろ壊して困ったと聞いています。しかし私が担当し始めたときのワカは推定21歳で、高齢にさしかかってきたものの、ほとんど手のかからない個体でした。ただ一つ困ったことが、メスとあまり仲良くできなかったことです。当時はヨネコというおとなのメスもいて、昼のみ展示場で同居していました。展示場ではワカの方が強くヨネコが食い負けてしまうので、先にヨネコから出してエサを食べさせていました。けんかをするわけではないのですが、後からワカを出すとヨネコが高いところに逃げるので、なるべくこちらに気を引かせようと、飼育員側の扉の窓から立ち上がったワカの口にエサをポイポイ投げ込んでいました。口をあ

んぐり開けて待っているワカの姿はユーモラスでした。2017年にはめずらしく麻酔をかけたことがあります。前肢を挙げていたのでレントゲンを撮ったところ、小さな針金がささっていました。鉄製のロープがさびたものだったと思いますが、飼育場で二度とこのようなことが起きないように気をひきしめる出来事でした。四国のツキノ



ワグマ保全のため、2017年にヨネコがとくしま動物園へ旅立ってから、ワカは自由気ままな一人暮らしになりました。推定23歳を超えてからは敬老イベントの常連になりましたが、ワカがもうおじいちゃんなんて信じられないとベテラン職員には言われたものです。敬老の日は担当者が特製ケーキを作るのが恒例でした。ツキノワグマ舎は格子があって写真が撮りにくいですが、毎回ダイナミックにかぶりついて完食してくれるワカの姿は作りがいのあるものでした。

このように長らく健康面に問題のなかったワカにも、2023年6月に背中の上のしこりが見つかり、悪性腫瘍であることが判明しました。それから健康管理のためトレーニングを始め、物覚えのよいワカは約2カ月後には採血ができるまでになりました。しかし背中の上の腫瘍はどんどん大きくなり出血も伴い、約半年間の闘病生活を終えました。この間、たしかにワカも介護するスタッフもつらいことが多かったです。しかしワカと一番密に接することができた期間でもあり、体調がすぐれなくてもやる気をもってトレーニングに協力してくれたワカの姿を忘れません。来園者の方からも心配の声をいただきました。四国のツキノワグマ保全のガイド時にも活躍してくれ、多くの人々に愛されたツキノワグマでした。



ワカの骨は標本を作るべく現在きれいにしてもらっています。加齢による背骨や前肢の関節の変形もあったようで、晩年は立ち上がるのがおっくうになっていた理由が分かりました。(次ページへ続く)



私はこれまででもたくさんの病気の動物を看取ってきましたが、ワカの死後はいつも以上に心にぽっかり穴があき、しばらく悲しみを引きずっていました。そんな私をなぐさめてくれたのは新入りのキノ（1歳メス）です。ワカの闘病中に山口県で保護された野生個体で、ワカのことはおかまいなしにおてんばに過ごしていました。オスのクマと子グマは野生下では天敵のため、顔を見せたり同居するようなことはありませんでしたが、扉ごしによくお互いのにおいをかぎ合っていました。ワカは晩年とてもおだやかな性格でしたので、キノとも何か会話をしたんじゃないかなと勝手に思っています。今、キノはワカと同様のトレーニングを順調にこなし、すくすく（ころころ？）成長しています。今はおてんばなキノもいつかワカのように落ち着いた性格になるでしょう。ツキノワグマ舎で代々受け継がれるクマたちの物語を紹介しました。（井上春奈）

いきもの講座

令和5年12月10日に、高知県立牧野植物園の藤川和美先生を講師にお招きし「植物のなんだろう？なぜだろう？ロゼットと冬芽の観察」と題し、第22回いきもの講座を開催しました。

どの講師の先生に来ていただくかの話し合いで、「令和5年は牧野博士の年になるから、ぜひ牧野植物園の方にお話しいただきたい！」となりました。全くの畑違いである動物園からのいきなり「講師として1時間半お話ししてください」というむちゃぶりを、藤川先生は快く引き受けてくださいました。本当にありがとうございました。

講師の藤川和美先生は、高知県立牧野植物園の植物研究課長・広報課長を兼務されている研究員です。青年海外協力隊に参加したネパールから帰国後、東京大学大学院理学研究科で博士号を取得されました。2003年より牧野植物園でミャンマー植物多様性研究や、タンポポ調査、外来植物調査などの教育普及活動に取り組みられています。講演会の直前にはミャンマーの現地調査に行かれていました。無事帰国されるのか少しばかり心配していましたが、有意義な旅だったそうです。牧野植物園のこういった海外での調査研究はとても先進的で、素晴らしい結果を残していると感じました。

講演は植物の分類から始まり、植物の人の生活への関わりや見たこともないミャンマーの植物の写真などがスライドで紹介されました。そして観察会前のお勉強として、植物の冬の過ごし方、ロゼットと冬芽について学びました。常緑樹と落葉樹のことや、地面にへばりついている植物（ロゼット）の、生き残り戦略について知ることが出来ました。

休憩をはさみ、いきもの講座は教室を飛び出して動物園内の植物ガイドに向かいました。当日は12月とは思えないぽかぽか陽気で、お散歩日和。藤川先生のガイドで時間を忘れてしまうほどでした。先ほどスライドで見た植物たちも、実物を見るとより細やかな発見があります。毛がいっぱい生えてる、厚みがある、テラテラ光っている、や案外硬いな、とか。普段は何も考えず踏みつけてしまっている枯れ葉でさえ、観察することで新たな気づきを与えてくれます。動物園内植物ガイドは1時間半の講座が全部これでもよかったかも。と思うほどの贅沢な時間でした。もっともっとお話が聞きたかったです。

講演会では牧野植物園作成の「高知県の外来植物」「植物を知ろう！ガイドブック」と「薬用植物区ガイドブック 薬用植物区を歩く」が参加者に配られました。どれも美しい植物の写真が満載のテキストで、見るだけでも楽しいものです。特に薬用植物区ガイドブックは見ごたえのある冊子で、これを片手に牧野植物園を訪れ、一日ゆっくり実際の植物や木々を眺めたいと思いました。（吉澤未来）



あにまるきゃっち☆ No.37



まだ寒さの残る春分の日
アニマルギャラリー内の
リクガメ展示場前でキャッチ☆

左から

筒井 ^{かのん} 栞暖さん(4歳)
^{ここの} 心暖さん(3歳)
^{かえで} 楓さん
^{はるひ} 暖灯くん(1歳)

高知市からのご来園です。
動物が見たいとリクエストがあったそうで
アニマルランドに遊びに来てくれました。

4月から9月のイベントとお知らせ

開催中～4月7日(日)
わんぱーくこうちまつり

4月7日(日)
アニマルランドクイズ大会

4月29日(月)
カプトムシの飼い方教室

4月3日(水)、8月14日(水)
臨時開園

中止や延期がある場合があります。
ホームページ、X、園内掲示などで
お知らせします。

7月開催予定
カプトムシすもう大会

7月開催予定
夏の企画展

9月開始予定
動物紹介

9月16日(月)
敬老の日イベント開催

日・祝 14:30～
ワンポイントガイド
動物の解説を飼育スタッフがおこないます

詳しい日程等は、決まり次第
ホームページ、Xにてお知らせ
します。

ふれあい広場開放時間

・10:30～12:00
・13:00～14:30

※ 7月～9月は、動物が暑さで弱ってしまうため
お休みしています

動物たちのエサの時間

キツネザル	10:30～
リクガメ	10:30～
チンパンジー	13:30～
フラミンゴ	14:00～
オオサンショウウオ	毎週土曜日 15:15～
アフリカコガタワニ	毎週日曜日 15:15～

表紙「ツキノワグマ」

2024年4月1日発行
発行・わんぱーくこうちアニマルランド
〒781-8010 高知市棧橋通6-9-1
TEL088-832-0189 FAX088-834-0929
Eメール kc-171204@city.kochi.lg.jp
編集 山本将充

<http://www.city.kochi.kochi.jp/deeps/17/1712/animal/>
アニマルランドニュース 4,10月の年2回発行
ホームページでも配信中

わんぱーくこうちアニマルランド

検索